

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人東京海洋大学

1 全体評価

東京海洋大学は、「海を知り、海を守り、海を利用する」の行動指針の下、教育研究の中心拠点となり、海洋立国として発展するための一翼を担うことを使命としており、海洋に関して国際的に卓越した教育研究拠点を目指すとともに、研究者を含む高度専門職業人養成を核として、海洋に関する総合的な教育研究を行うことを目指している。第3期中期目標期間においては、教育では、豊かな人間性、幅広い教養、国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養を有し、海洋に対する高度な知識と実践する能力を有する人材を養成するとともに、研究では、海洋科学技術に関わる環境・資源・エネルギーを中心とする領域と周辺領域を含めた学際的な研究を推進することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、海洋産業AIプロフェッショナルの育成と研究を推進するために、海洋に関する各種ビッグデータを蓄積及び解析を行うための教育・研究システムを整備した「海洋AI開発評価センター」を設置するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 海洋資源環境学部において、新たに導入した4期制を活用し、新たな海外派遣プログラム「海洋資源環境キャリア実習」を開始し、4学期制の第2学期にノルウェー及びデンマークに合計14名の学生を派遣している。（ユニット「国際競争力強化のための海洋産業人材育成組織の構築」に関する取組）
- 「OQEANOUS（※）サマースクール2019」を主催し、上海海洋大学及び韓国海洋大学から10名ずつ、東京海洋大学から5名の学生が参加し、合計25名の学生が3大学の教員による様々な分野の講義を受け、いであ株式会社や国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）にて見学等を行っている。（ユニット「国際競争力強化のための海洋産業人材育成組織の構築」に関する取組）

※ OQEANOUS（オケアヌス）：Oversea Quality-assured Education in Asian Nations for Ocean University Students の略

## 2 項目別評価

## &lt;評価結果の概況&gt;

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

## 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

## 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

## 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

#### ○ デジタルアーカイブを用いた研究成果等の発信

公益社団法人日本水産学会と協議を行い、当該学協会の発行する「日本水産学会誌」及び“Fisheries Science”に受理された大学教員の論文については、学術情報課（附属図書館）が代行して申請を行うことが可能となったことにより、「論文原稿を学術情報課（附属図書館）に提供する」というシンプルなプロセスで、リポジトリOACISからの論文公開が可能となり、科研費による研究成果のOACISにおける公開件数及び当該研究成果へのアクセス数が大幅に増加している。

#### （４）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

##### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

### ○ 海洋産業AIプロフェッショナルの育成と研究推進

令和元年度に設置した「海洋AI開発評価センター」では、最新高性能コンピューターとともに海洋に関する観測機器やゲノム解析用高速シーケンサー等、海洋に関する各種ビッグデータを蓄積及び解析を行うための教育・研究システムを整備し、「海洋産業AIプロフェッショナル育成卓越大学院プログラム」において、神鷹丸等の練習船、水圏科学フィールド教育研究センター及び先端ナビゲートシステム等を活用し、海洋産業が求める自律航行船の開発や人工衛星やアルゴフロートデータに基づく海洋観測、水圏生物のゲノム情報解析、水産資源の評価と管理、次世代スマート水産業の創設等、海洋・海事・水産の広範な分野を網羅的に教育・研究を行うこととしている。